

## ●夢とロマンの無人島

日豊海岸国定公園の南の端・門川町の湾内に、なだらかな起伏を持った周囲約四<sup>キ</sup>ロの誰も住んでいない小さな島が浮かんでいる。「乙島」である。

この島を門川町の方から見ると、乙女が仰臥(が)しているようであり、ここから乙女の島といわれ、やがて「乙島」と呼ばれるようになったという伝えがある。

日豊海岸のリアス式海岸の中にあり、日向灘の荒波に洗われる東部岸壁は、絶壁状の岩肌が露出している。その岸壁の下には、長年浸食されて自然にできた七つの洞穴が口を開けていて、ファンタスティックな趣がある。最大の洞穴には「茶屋の大門」という名前が付いている。暗くて奥が深く、その深部は竜宮に通じているといなので、俗に「竜宮のぞき」と呼ばれている。まだ誰もその奥を極めた者はいないという。



乙島。野性味あふれる雰囲気が集める

乙島には、こうした幻想的なロマンに満ちた話のほか、以前から天然記念物のカラスバトがすみ着くなど、野性的な一面も維持されており、以前から近隣の町村の人たちから親しまれている。

周辺の海はもともと豊富な漁場として釣り人たちに知られていた。今では、この島が身近なため、遊びに訪れる人も多く、その目的も多様化している。このため町では、そうした人たちの便宜を図り、町おこしの観光資源として宣伝にも力を入れている。

最近では島内にウサギを放し、総合案内所をはじめ、遊歩道、キャンプ場、バンガロー、展望台、共同炊飯場などの設備も充実させた。無人島の冒険にあこがれ、毎年夏になると、家族連れや若者のグループ、釣り人、高齢者のサークルなどがキャンプや貝採り、動植物ウォッチングなどそれぞれの目的で島を訪れ、自然回帰プ

ームに乗ってにぎわっている。遠足の場所を選ぶ学校も増えている。

無人島は日本各地に多い。しかし、島内にうっそうとした植物群があり、ステイブンスンの「宝島」を思い起こさせるような冒険心を駆り立てる、野性味あふれる雰囲気を持った島は少ない。

門川町の人たちは、乙島を「サバイバルアイランド乙島」、そして無人島をもじって「夢人島」と呼び、誇りとして語る。閉塞(へいそく)感のあふれる現代社会にあって、乙島は夢を与えてくれる「宝島」である。

船で約五分。門川、庵川漁港から一年を通して渡船が出ている。

甲斐 勝